

[日時]2022/7/20

[場所]3A204 Microsoft Teams

[出欠]出席

[議題]

① TWINS 改善の要望について<担当：教育環境委員会>

② 国際特別委員会設立の要請について

③ 企画・戦略特別委員会設立について

[資料]

- ・ 22008_第4回本会議議事次第
- ・ 22009_TWINS 改善の要望書
- ・ 22010_国際特別委員会設立の要請書
- ・ 22011_企画・戦略特別委員会の設立の要望書
- ・ 参考資料1_TWINS の利用状況に関するアンケートについての報告書
- ・ 参考資料2_TWINS 要望に関する画像説明一覧

[会議の流れ] 開会→資料確認→出欠確認→議題①→採決①→議題②→採決②→議題③→採決③→委員会報告→その他諸連絡→散会

開会

資料確認

出席確認

議題説明

◆中田(教育環境委員会委員長)

本日の議題一番目の TWINS 改善要望書について説明する。これにある通り、教育生活環境調査から TWINS が使いづらいという意見が多数寄せられ、全大会の調査委員会に調査を

依頼し、TWINS の利用状況についてのアンケートを実施した。これをもとに自己判定機能、履修登録機能、掲示板機能に関する意見が多数であることがわかった。これを受けて、来年度は TWINS のアップデートが行われることが判明しているため、全代会として以下の六つの点を要望する。一つ目、自己判定機能を学年問わず使用できるようにする。二つ目、事前登録した授業を抽選結果が出る前に履修登録状況の画面に表示する。三つ目、TWINS の掲示板での manaba のコースニュース欄を削除する。四つ目、掲示板の情報について、学群生と大学院生の授業を分ける。五つ目、掲示板に提示される情報にタグをつける。六つ目、重要な情報について通知がメールで届くようにする。

資料にはこれらの六つの要望に関する詳細を記載した。二つ目に関して、現在は事前登録の抽選結果の前段階だと履修登録状況照会には表示されない。これが確認しにくいので、表示できる設定にし、また、色別で、抽選中か結果後かがわかるようにする。また、同画面に募集人員や事前登録している人数の表示も求める。五つ目に関して、現在は全ての学類のさまざまな情報が TWINS の掲示板に表示されている。そのため、自分の学類に関する重要な情報を逃しやすい。学類を登録し、その学類の情報に色がつくなどのタグをつけることでこれを回避する。六つ目に関して、五つ目の要望の表示に加え、授業評価アンケートについてもメール通知するよう要望する。要望書の概要については以上。

別紙参考資料 TWINS 利用状況に関するアンケートについての報告書は先ほどの説明の調査委員会に依頼したアンケートの結果になっている。これの5ページ目の下の全体的に寄せられた意見の内容の中で赤く表示されているものは今回の改善要望で取り上げた意見になる。成績や履修、掲示についての要望が多かったので、これらを選び要望した。

TWINS 要望に関する画像説明。

・要望①TWINS の自己判定機能を学年問わず使用できるようにする。

自己判定機能は四年次からしか使用できず、その段階から使用できたとしても教職等に関しては手遅れである。そのため、もっと早い段階から自己判定機能を使えるようにし、各自が卒業できるのか、資格が取れるのかを随時確認できるようにすることを要望する。

・要望②事前登録科目を抽選前に時間割に表示する。

事前登録科目が抽選前に時間割に表示されていないと、自分がその科目を事前登録したかどうか分からない。そのため、確定する前の授業をそのほかの授業と色分けして表示することを要望する。

・要望③twins の掲示板「授業(主として manaba のコースニュースからのお知らせ)/Classes」欄の削除。

既に manaba で確認済みであるはずであり、掲示板で表示する必要はなく、削除を要望する。

・要望④学群生と大学院生で授業に関する情報を分ける。

学群生向け の情報と、大学院生に関する情報の両方は載せる必要がない。そして、それぞれの情報のみを提示することにより、情報量が少なくなり見やすくなると考え、こちらを要

望する。

・要望⑤TWINSの掲示板のお知らせにタグ（#）を付ける。

重要な情報が学生に通知なしで来ることを阻止するために、#教職 といったようなタグをつけて、学生が登録したタグに関する掲示は、メール等での通知が来るように改善することを要望する。

・要望⑥分類された情報についてのメール通知・授業評価アンケートについてのメール通知をする。

情報の見逃しや、授業評価アンケートの回答忘れを防止するために要望する。

教育環境委員会からは以上である。

質疑応答①

◆成田(生物学類)

自己判定機能について、これを使うことにより足りていない単位やこの授業を取る必要がある等を表示できるようになるという機能なのか。

◆中田(教環委員長)

その認識で正しいと思う。自己判定機能に関しては自身の学類の必修授業など各学類に関して異なるかと思うが、それについて足りないもの等が通知ないしは判定で表示されるかと思う。また、資格判定に関しては学類ではなく教員免許や学芸員等の資格について、単位が足りない場合に表示されるようになっているので、4年生の方が使えるというよりは1年次から計画的に履修登録を出来る方が学生の方にメリットが大きいと考えた為今回要望した。

◆成田(生物)

私も教職を取るのに頭を抱えながら履修登録を行っているので、大変ありがたい機能だと思う。

◆菅原(知識情報・図書館学類)

質問ではなく文章に関する意見になるが、TWINS改善要望書の④について「掲示板の情報について、学群生と大学院生とで授業に関する情報を分けること。」とあるが、学群授業と大学院の授業について情報自体は分けられている。今回要望することは学群生の掲示板には大学院の授業に関する情報は載せないというような内容であると理解をした。参考資料を見ると内容については分かるかと思うが、TWINS改善要望書に書かれている文章のみであると意味を間違えて取ってしまう可能性があると感じたので、具体的な案を出せない

ことは申し訳ないが文章の内容を変えた方が良いのではないかと思う。以上である。

◆中田(教環委員長)

菅原さんの解釈で間違いない。TWINSの要望書については確かに解釈の違いが見受けられる可能性があるので、「掲示板の情報について、学群生と大学院生とで授業に関する閲覧の情報を分けること。」など、後程文章を訂正する。

◆渡部(生物資源学類)

要望項目の⑤についての質問がある。メールに通知される際に付けられるタグを学期の最初等に生徒個人が登録・設定するが、先生方が投稿をする時に新たなタグが追加・使用された場合に、そのタグについて学生側に知らせる何かしらの策があれば教えていただきたい。

◆中田(教環委員長)

私たちがTWINSの中を調査している限りだが、掲示板にある情報や告知は、各個人の先生がmanabaに上げている情報がそのまま転載されるか、先生方が支援室などを通して掲載していることが多いのが現状なので、先生方が勝手にタグを作るのは難しい。あくまでも要望項目⑤の目的としては、細かく分類にするのではなく「学類だけ」や「資格だけ」のように大まかな分類にすることによって、情報に漏れがないようにすることだが、今後万が一、先生側から「細かい分類が欲しい」という要望があれば、「そのタグについての情報」も一緒に掲示する必要があると思うので、参考にさせていただく。

◆竹之内(化学類)

要望項目④について質問がある。TWINSにいろいろな機能を追加するのは良いと思うが、「色の意味」というものをどのように伝えていくつもりなのか知りたい。私は春BになるまでTWINSの事前登録のオレンジや黄色の意味が分かっていなかったもので、新たな機能が追加されると「これはいったい何だろう」と思いながら知らないまま利用していく人が出てくるのではないか。なので、どうやって周知させていくのか教えてもらいたい。

◆中田(教環委員長)

「オレンジと黄色でどのように区別されているか(黄色→単一モジュール/オレンジ→複数モジュール)」についてはTwins内で掲示されているので、新たな機能を設定・追加する際は上記の掲示に書き加える形になる。但し、その掲示が見えづらいところにあったというのは事実なので、そちらをより分かりやすい場所に掲示してもらうようにする。

◆佐藤凌(物理学類)

筑波大学では学群生が大学院の授業をとることが可能だったと思うが、掲示板の情報を学

群生と大学院生とで授業に関して情報を分けることで、学群生に大学院での授業についての連絡が一切告知されなくなり、それによっていくらかの不都合が発生してしまうのではないかとと思われるが、その辺りはどのように考えているか。

◆中田(教環委員長)

教育環境委員会内でも同様の意見が上がった。それに対する改善策としては、学群生の情報と同様に、履修登録の状況についての情報も Twins で確認できる。これらの情報をシステムの的に照らし合わせることで、もしも学群生が大学院生向けの授業を取っている、逆に大学院生が学群生向けの授業を取っていた場合、その旨を表示されるように設定するのがベストである。ただし、ほとんどの学群生は学群生向けだけの、学院生は学院性向けだけの授業を取っていると思うので、基本的には「学群」又は「大学院」に関する情報のみを生徒側の漏れがないように提示すればいいと判断していたが、場合によってはすぐに上記を設定できるように、何かしらの準備はしておきたいと考えている。

採決①

◇河野(議長)

承認 43 否認 0 保留 3

構成人数の過半数の承認が得られたため、議題を承認されたものとみなす。

議題②

◆山口(応用理工学類)

国際特別委員会設立について説明する。この特別委員会は学内での留学生の問題の解決を目的としている。現時点で解決したい問題点は3つ。1つ目はサークル紹介誌について、日本語でしか書かれておらず留学生が情報を得るのに難しい。英語で作るなどの対策を講じて留学生でも読みやすい冊子を作りたい。2つ目はチューター制度の改善について、チューター制度とは留学生に日本人、もしくは日本語が達者な留学生がサポート役として付くのだが、現在行っている組織やチューターとしてサポートする側に問題がある事例が発生している。それらを改善したい。3つである目は留学生の意見の集約である。現状として留学生の意見が全代会に集約されづらく、学生の問題点もわかりづらい。そのため全代会に留学生を参加させるなどして解決を図りたい。活動期間は令和4年7月から令和7年6月の3年歓を予定している。

質疑応答②

◆中田（教育学類）

留学生からの意見の集約の際に、教育生活環境調査などと同じように、記述回答を求める場合もあると思う。日本語以外での回答について、その解釈を国際特別委員会や全代会で責任をもって行えるものだろうか。

◆山口（応理）

専門委員として留学生の参加も見込めるので、その協力を得つつ解釈の齟齬を極力減らしていきたい。

◆宮内（医学類）

国際特別委員会の設立にあたって、その活動内容を考えると、一定の英語（外国語）の能力を持つ委員が求められると思われる。そのような委員を集めることはできそうか。

◆山口（応理）

国際特別委員会は留学生などの外国語話者との対応にとどまらず、大学の関連部局の職員など、日本語話者との対応も多数ある。例示すればサークル紹介誌に関連する課題はもっぱら三系会議とのやり取りであるため、日本語話者でも活躍の現場は多々あると思う。また、英語話者とのやり取りも、専門的なレベルの英語を要求するわけではないため、人材不足、技量不足というのはほとんど起こらないと考えている。

◆江波戸（情報メディア創成学類）

サークル広報誌の英語対応は各課外活動自治組織（通称「三系」）の取り扱う事項であるので、三系会議に連絡をするだけで済みそうな事項だが、なぜ敢えて国際特別委員会の主たる活動に取り上げているのか。

◆山口（応理）

昨年（学内行事委員会名義で）三系会議に打診をしていたのだが、調整がうまくいかなかった。そのため、国際特別委員会という新たな専門組織を立ち上げて、より綿密な三系会議とのミーティングを行うことで、実現と定着を図ろうとするものである。

採決②

◇河野（議長）

承認 42 否認 1 保留 2 無効票 1

構成人数の過半数の承認が得られたため、議題を承認されたものとみなす。

議題③

◆佐藤翔（物理）

戦略特別委員会設立の要請は前々から話をしていたと思うが、今一度この委員会の設立の経緯について説明する。皆さんも薄々気が付いてきていると思うが、（全代会や委員会では）振られた仕事をやることが多く、平坦化されているという印象を受ける。これは内部から見た全代会の内容ではなくて外部から見ている学長・先生に言われたことだ。一年生は知らないと思われるが過去の全代会構成委員と学長との懇談会で「全代会で自分たちの仕事をやるのが普通やるべきこと。組織がいかに功績を挙げるか、普段当たり前に行っているものの先の仕事をやらないと進歩にはならないよね」と2021年度には言われた。

今回、全代会として解決すべきだったが大きすぎて今まで触れてこなかった課題、特に全代会永遠の課題である広報などに専門的に取り組んで行ける委員会の設立を希望する。活動内容としては、先ほど触れたように広報と全代会の今後に関する企画の立案や長期的な課題の解決。長期的な課題に関しては今後練っていく所ではあるが、具体的には学則の改定、クラ代・全代会の制度などである。これらに関しては今後の本会議でも話すが、10年以上前からずっと「クラ代どうにかしないと」という話があり、昨年も一昨年も今年も同じことしているという何も解決できていない状況である。そういったモノをやっていただければいいと思っている。また、他の委員会の活動の領域を侵害する気は全くない。例えば広報の活動をしたかったら、広報委員会に連絡して連携するし、生活環境なら生活環境等の話を通して連携してやっていくという所存ではある。特別委員会をわざわざ設立する必要については先ほど言った通り、そういう場合は今までなく、なあなあになって代替わりし、一旦企画が消滅してまた再燃するというサイクルを繰り返しているののでしっかりとした場を設けて専門的に取り組んでいきたい。今年は議長団が一人一年生ということもあり来年の引継ぎにも大いに期待しており、そういった面でも効果があると思っている。説明は以上。

◇河野（議長）

質疑応答に入る前に訂正させてもらう。まず書類の名前について「要望書」としたが正しくは「要請」である。並びに設立の要請に関する書類の日付は、正しくは本日7月20日水曜日になる。大変失礼致した。

質疑応答③

◆篠崎（日本語・日本文化学類）

活動期間について質問がある。先ほど承認された国際特別委員会が3年なのに対して、こちらは1年になっている。これに対しては、1年で目標を達成するというよりは、とりあえず1年活動し問題を解決しつつ、必要があれば来年の本会議で継続的に運営していくという認識でよいか。

◆佐藤翔（物理）

後者の認識で問題ない。とりあえず1年委員会を実施し、必要であれば特別委員会として継続する。常任委員会とする必要はない。1年活動を実施したのち、委員会継続が必要でないとなった場合、議長団や他の委員会が活発化するのであれば委員会をなくしても構わない。

採決③

◇河野（議長）

承認 44 否認 1 保留 0

構成人数の過半数の承認が得られたため、議題を承認されたものとみなす。

委員会報告

○総務委員会

・全代会室の掃除広報会の議会のメンバーの名刺の作成ならびに第三回本会議の議事録作成などを行った。

○学内行事委員会

・7月5日にオンラインで、7月19日に対面とオンライン両方でミーティングを開いた。内容は、学類から提出された書類及び学園祭関係の書類の赤入れ等をした。

・7月13日に学生組織連絡会（他の学生組織を集めて行う連絡会）を開催。サークルの文化系・芸術系のサークル連合会の長の方や、学園祭実行委員、スポーツ系の代表者の方等に集ってもらい、意見交換をした。議事録はまだ挙がっていない（後日掲載予定）。

○教育環境委員会

- ・本会議の準備をした。

教育環境委員会からお願いです。教育環境委員会と生活環境委員会で協力して生活環境調査を開始している。これからの活動方針になるため、回答及び共有をよろしくお願いする。

○生活環境委員会

- ・7月19日にミーティングを行った。内容としては、先週生活課の及川さんに会いに行ったときの話をした、広報新聞の作成をした。生活環境調査の回答を各学類でまわすことをお願いしたい。

○調査委員会

- ・7月18日にミーティングを行った。そこでは特に仕事無し。
- ・来週のミーティングでは、作成したいアンケートがあるため、参加できる方は来週月曜日の6時半から調査委員会のミーティングへの参加をお願いしたい。

○広報委員会

Campas 227号の制作をしている。

○新入生歓迎特別委員会

メンバーを募集しているので、興味ある方は連絡をお願いします。

○国際特別委員会

本日設立された。意見交換会をしたいという話があり、来週日程調整して、意見交換会をする予定。また、正式に設立されたのでメンバーがたくさんほしい。少しでも国際に興味がある方はぜひ参加してほしい。

○戦略特別委員会

特別委員会の承認ありがとう。今メンバーを集めていこうと思っている。兼任していてもかまわないので、全大会の活動自体に興味を持っている方などはぜひ参加してほしい。

○全大会議長団

最後に座長団からお知らせである。本会議は、春会議では最後になると思う。本日もかなり人数ギリギリであるため、各学類座長副座長合わせて秋以降の本会議の参加をお願いします。また、夏休み中になると思うが、座長の方は研修会、ならびにクラ代議長の方はクラ代議長懇をやることになると思う。座長、あるいは副座長の方は協力をお願いします。また、夏休み

中全代会としてはそこまで大きな活動をする予定はないが、各委員会で仕事がある、あるいは言いたいことがある場合は議長団に連絡をお願いします。

その他諸連絡

◆森（副議長）

交流会について。15日に第一回交流会を行った。国際委員会の方から、留学生が参加してくれたこともあって、非常に良い交流ができたと思う。次回は、8月10日から12日のいずれかで開催したいと考えている。しかし、コロナ感染者が多いこともあるので、各自の判断で参加してほしい。前回よりもカジュアルなものにしたいと考えている。

◇河野（議長）

コロナ感染がかなり広がっているため、いろいろ動きたい方いると思うが、感染対策のほど、よろしくお願いします。では、第四回本会議を終了する。

散会

以上 総務委員会 山岸史和 作成